

ミャンマー オンライン派遣校に決定!

この度、対日理解促進交流プログラム「JENESYS」高校生オンライン派遣プログラムへの本校の参加が決定しました。

【派遣国】ミャンマー

【参加生徒】十一名

・二年生

五組 田中さくら 西田千華

六組 小竹黄葉 宮崎遙

・一年生

六組 北出敦寛 芝田葵依

寺井巴菜 中村壮太 橋本昊征

早田朱里 本田亥節

【プログラムの主な内容】

・ミャンマーに関するクイズ

・在ミャンマー日本国大使館

中島優子書記官による講義

・質疑応答

みなさんは、ミャンマーと聞いて何を連想しますか。アウンサンスーチー?クーデター?ビルマの竖琴?

中島優子氏による講義では、ミャンマーについて幅広く、わかりやすく説明していただきました。

参加生徒による感想(一部抜粋)を紹介します。

一年六組 早田 朱里

今回で一番驚いたことは、ミャンマーの教育のことだ。まだまだ暗記型教育でしかも大学でも行われているという事は日本でも普通に生活していても知ることがなかっただろう。また、私は正直ミャンマーについてク

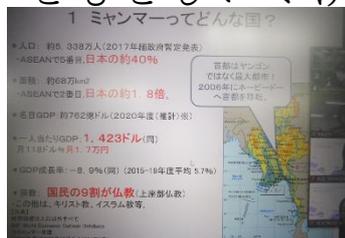


ーデータのイメージがあつたが、事前学習やアイスブレイクで新しいイメージを持つことができた。やはり日本にいて「M」などで一方的に得られるものだけで生活しているのだと気が付いた。また、その情報も最低限で自分が思っていたより大変なことが起こっているのだと感じ”海外と言えばアメリカ!豊か!平和!”など、自分がいかに狭く限られた範囲で物事を認識しているのか痛感した。中学生の時に比べて自由になり、沢山の事を知ったつもりでいたが、ミャンマーやウクライナ、その他の国で戦争状態にあり一概には平和とは言えない状況だと思った。ミャンマーの事前学習で大学進学率が男子より女子の方が高いと知った。その上、中島さんの話で私たちと同じくらいの年齢の子が大学進学すると聞き、深く考

えるものがあつた。色々な事を知るためには英語が必要だと中島さんがおっしゃっていた。視野を広げるために英語の勉強を大切にしていきたいと思った。

二年五組 西田 千華

ミャンマーのクイズがある、と聞いて「満点を取るぞ!」と言う気持ちで基本的な情報を調べたり友達と話したりしてミャンマーについて調べるのが楽しかった。当日のクイズでは調べたことなどがクイズに出たりして満点は取れなかったけれど、沢山のミャンマーについての知識を楽しく理解することができたし、もっと知りたいと思った。



ネットワーク通信

十二月に行われる本プログラムの前に2回行われるプログラムのうち、1回目(10月5日(水))に行われ

などのほぼ知らないくらいに知識しかなかったが、今回の講義を受けて単語の意味は勿論、ミャンマー特有の文化、建物、人柄、など幅広い分野のミャンマーについて知ることができた。

また、自分から積極的に質問をする事が出来なかったのは反省点であり、これからの課題だと思った。

一年六組 中村 壮太

No.12

中島さんにミャンマーのことを詳しく教えてもらい、日本の文化もミャンマーの文化も双方どちらにもそれぞれ違った良さがあると思いました。食文化や、衣服文化など、それぞれの文化は違っていたけれど、自分はどうしても特徴があり、伝統を大切にしている

とてもいい
と思いますし
た。特に、ミ

ヤンマーの
市場の量り
売りは初め
で聞いたの
でとても驚



きました。また、ミャンマーと日本で主食は米であるという意外な共通点を知ることができました。そして、話を聞いていく中でミャンマーの文化と日本の文化で、「人間性」という点で似ていることを知り、親近感がわき、ミャンマーの国の方に対する印象が変わりました。自分のお皿より友達のお皿に盛りつけて、自分より友達を優先したり、あるものを頂いたりするときに遠慮して「すみません」と言ったりするという話を聞いて、日本人と似たような行動をしていると聞いて、とてもうれしく感じました。日本とミャンマーで、文化を比べてみると、今まではあまりなんとも感じてこなかった、日本の文化のいいところも感じ、ミャンマーのいいところも感じられることができました。

一年六組 橋本 昊征

今回の講義で印象に残っている一つは、今のミャンマーの政治体制だ。日本では、選挙が当たり前に行われている。しかし、それが当たり前ではないことに

気付かされた。そして、選挙という制度は去年のミャンマーのよ



単に奪われてしまうということに私は改めてショックを受けた。今ミャンマーでは軍が政権を握っている。軍がクーデターを起したとき、ミャンマーの人々は平和的にデモを行い、政権を握っている軍に対して抗議をした。私はこの行動に大きく心を動かされた。もし私がミャンマー国民だったとすれば、そのような行動には出なかつたと思うからだ。私は平和的なデモにできることには限りがあると、すぐに見切りをつけてしまうだろう。そのようなことをしても時間がかかるだけであり、暴動に出た方が手っ取り早いと思ってしまう。しかし、ミャンマーの人々

はそうしなかつた。その時は、ミャンマーの人々は平和や民主主義に対して私なんかより何倍も強い希望や意思をもっているのだと強く感じた。

そして私は、ミャンマー軍のクーデターを許してはならないと、今回のお話を聞いて感じた。それは当然ミャンマーの人々のためでもある。しかしこのクーデターに対して抗議をするということは、我々日本の民主主義を守ることにつながるのではないかとも思う。このクーデターに抗議をすることで、私たち日本国民は日本政府に対し、「日本の民主主義をこれからも守り続けてほしい」という意思表示ができるはずだ。

これから私たちは日本人は、このクーデターを他人事だと思つてはならないし、私たちにとつても、抗議を行うことが意味のあることだと自覚しないといけないと思